

【専門教育科目/看護の展開/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
感染看護論	NSP44_004	選択	1	4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワ～		
堀口 まり子	410	mariko.horiguchi	月曜日 16:30～18:00		
授業の目的・概要	感染を未然に防ぐ知識と技術は、地域・在宅から高度専門医療機関まであらゆる看護の領域において重要な課題である。施設内および市中感染における感染防護の基礎的知識・技術、感染症看護の基礎的知識と技術について理解し、感染看護の理解を深めることを目的とする。感染症対策は個人だけでなく地域や組織で行われることを理解し、看護職の役割と機能について教授する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	近年の感染対策の動向と感染対策の基本的な考え方が理解でき、整理できるように実際の事例を意識的にとりあげる。感染対策の看護を実習体験から振り返り、看護を考える機会にすること。				
教科書	1) 系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学3基礎看護技術Ⅱ/著:有田清子/医学書院/2020 2) 系統看護学講座専門分野Ⅱアレルギー膠原病感染症/編:岩田健太郎他/医学書院/1991 [3冊指定]				
参考書	感染看護学/編:操 華子・川上和美/南江堂/2022 基礎から学ぶ医療関連感染対策/著:坂本史衣/南江堂/2020 感染管理・感染症看護教科書/編:大曲貫夫, 操 華子/照林社/2015				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	組織の中の感染制御の位置づけを説明できる。			HSU(2)、NS(2)	
②	感染症法と新興・再興感染症対策について説明できる。			HSU(2)、NS(2)	
③	感染症と標準予防策と経路別予防策を説明できる			HSU(2)、NS(2)	
④	感染防止技術について説明できる。			HSU(2)、NS(2)	
⑤	感染症看護の知識や技術が説明できる			HSU(2)(4)、NS(2)(4)	
⑥	感染予防における看護職の役割と機能について説明できる。			HSU(2)(5)、NS(2)(5)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	組織の中の感染対策と看護の役割 ・院内感染とは ・院内感染対策の実際	講義	事前課題：教科書 1) p 423～460、を読みまとめる。		4
2	日本における感染管理の変遷 ・感染症法と新興・再興感染症の対策 ・新興・再興感染症の課題、薬剤耐性菌の広がり	講義	事前課題：教科書 2) 感染症法 新興・再興感染症 p 230～232 を読みまとめる。		3
3	感染管理の実際 (1) ・感染防止の基礎知識 ・標準予防策・経路別予防策、 ・感染防止技術	講義	事前課題：教科書 1) p 422～460、2) p 342～p 369 を参考に学習内容に沿って整理し出席する。		4
4	感染管理の実際 (2) ・職業感染対策      ・予防接種とワクチン ・感染管理・専門看護師の役割・機能	講義			4
5	感染管理の実際 (3) ・サヘバイランス ・アウトブレイクへの対策	講義 GW			4
6	介護施設等における感染対策の実際 感染制御が必要な対策の実際	講義 GW 小テスト	事前課題：事前に配布した資料をもとに介護施設等の感染症看護に関することまとめる。		4
7	感染制御が必要な対策の実際	講義 GW	事前課題：感染制御の手技について整理する。		4
8	感染制御が必要な対策の実際	講義 GW 発表	事前課題：感染制御の手技について整理する。		3
試	達成度評価・評価のポイント参照				

【専門教育科目/看護の展開/看護の統合と発展】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポ～ト	成果発表	ポ～トフォリオ	その他	合計
		20	60	0	10	10	100
総合力指標	知識・技術力	10	20	0	5	0	35
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	5	5	20
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント						フィ～ドバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	講義内で実施する小テストにより学習成果を 20%で評価する。				必要に応じて結果のフィ～ドバックと解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポ～ト	①	✓	最終授業時に課すレポ～トによって授業内容の理解およびテ～マに対する学生自身の考え方が明確に表現されているかを 80%で評価する。				授業中に助言を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポ～トフォリオ	①	✓	ノ～トに整理した事前課題を評価する。				事前課題を基に授業を進める。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①		グループワークへの参加姿勢や意欲を総合的に評価する。				授業中に助言を行う。
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員							
教 員 の 実 務 経 験	科目責任者は病院の看護師として 40 年の臨床経験を有する。						
実 践 的 授 業 の 内 容	実務経験のある教員の指導のもと、感染看護について理解を深める。 教員の経験から感染症看護の実践事例を取り上げ、教科書と比較しながら学習する。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験への教科書持ち込みは不可とする。</li> <li>対面授業に際しては、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は授業への参加を認めません。</li> <li>Teams を使った同時双方向型授業を行う場合には、通信容量が無制限の Wi-fi 環境を推奨いたします。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の状況などの社会情勢により再度シラバスの変更があることも考えられますが、その際は随時、お知らせいたします。</li> </ul>						